

琉球大学学術リポジトリ

輸入木材に発見される害虫類（1）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): 輸入木材, 害虫, 採集記録, カミキリムシ, ラワン材, 沖縄, 写真 キーワード (En): 作成者: 長嶺, 将昭, Nagamine. M. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015198

輸入木材に発見される害虫類 (1)

長嶺 將昭

(琉球植物防疫所)

近年用材の需要の増加に伴い森林資源の乏しい沖縄ではその供給を輸入材にたよっている現状にあり、その輸入量は年々急速な増加をみている。過去6年の用材の輸入量をみると第1表のとおりで1965年は1964年に比してその数量で約91%の増、件数で約57%増加している。

第1表

年	件 数	数 量 (m ³)
1960	31	26,863
1961	63	54,826
1962	78	68,436
1963	96	72,616
1964	180	77,495
1965	282	149,043

採集記録 (昨年12月以降の主なるもの)

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考	採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1965 12. 9	2♂♀	日本	スギ(丸太)	成虫	1966 1. 6	5exs	日本	スギ(ベンコ材)	成虫
12.10	11exs	"	スギ(角材)	10exs(成虫) 1exs(幼虫)	1.13	3exs	"	"	"
12.17	6exs	"	スギ(丸太)	成虫	2.21	6exs	"	スギ(丸太)	"
12.25	2exs	"	"	"	3. 2	3exs	"	スギ(ベンコ材)	"

本種は本土産杉材に付着加害してくる種で12~3月にも越冬中の成虫を得ることができる。幼虫は樹皮下を蛇行して食い進み、成長して辺材部を斜めに1~2cm食入して蛹室をつくり入口を木クズで密閉して蛹化する。生立木には加害しない様である。体長6~13mm(筆者の標本では♂で6~13mm, ♀で5~14mmあり、10月、11月のは小さく2月、3月のは大きい)体は黒色で脚と触角(第1節を除く)は暗赤褐色、腹部は赤褐色を呈する。翅鞘は個体により変異がみられ原型は全面赤褐色(♀)で、他に全面濃藍色のものと翅鞘が濃藍色となり肩部が赤褐色のとがある。触角は雄で体長より長く、雌ははるかに短い。本土では3~7月に出現し、日本全土、樺太、朝

このような用材の輸入の増加に伴い輸入検疫時に発見される害虫も年々増加している。

1965年から1966年2月迄に検疫時に発見された害虫類はカミキリムシ科7種、ナガシングイムシ科6科、ツツシングイムシ科2種、ナガキクイムシ科7種、キクイムシ科10種、ヒゲナガゾウムシ科4種、ゾウムシ類9種、キバチ科2種、その他シロアリ、ハサミムシ、トゲアリ、サソリ等があげられる。

上記のうち種名の判明しないもの多数あるが同定できたものから紹介していきたい。

なお、本稿をまとめるにあたり全面的に助力助言下さった琉球植物防疫所の松村、野原、小谷の諸兄に心から謝意を表する。

Cerambycidae カミキリムシ科

1. *Palaeocallidium rufipenne* Motschulsky

ヒメスギカミキリ

鮮、台湾に分布する。

食樹としてはスギの外にヒノキ、ヒバ、モミが知られ成虫はこれらの倒木に多い。本種は製材した杉材にも付着しており昨年12月から今年1月にかけて5回発見されている。沖縄にも分布する。

2. *Xylotrechus grayii* Whit ムネマダラトラカミキリ

本種は老朽したイヌマキからはじめて採集した種で前記採集記録は同一材から得たものである。1本のイヌマキに100余の食痕が認められた。幼虫は食痕からみて前種同様に樹皮下に蛇行して加害し、成長して辺材部に食入するものとみられる。蛹室は1~2cmの浅いものから3~5cmの深いものまであり、入口を食入した侵入口と

は逆の方にもう1つつくり、2つもっている。

採集記録

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1966 1. 6	12exs	日本	イヌマキ(丸太)	成虫
1. 8	8exs	"	"	"
1.13	10exs	"	"	lex(幼虫) 10exs(成虫)

体長9~15mm(筆者の標本では7~13mm)雌雄同形で体は黒色。翅鞘は褐色で基部、翅端、側方は不規則に黒色である。前胸背には10個の白色微毛からなる小紋があり後方の2紋は大きい。翅鞘には細いイナズマ形と斜めの白条を各1本ずつもっている。脚は中、後腿節の基部三分と、中、後脛節の中央部は赤褐色でその他の部分は黒色。翅端の外縁角は尖っている。本土では6~8月に出現し、カエデ、クワの花に集まりサカキに産卵する。

日本全土(沖縄を含む)台湾、支那、マリアナ群島に分布し、食樹としてキリに多く寄生し、クワ類、ニレ類が知られる。余り多くない種である。

3. *Hirticlytus comosus* Matsushita

ケブカトラカミキリ

採集記録

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1965 12. 7	2exs	日本	イヌマキ(丸太)	成虫
12.10	4exs	"	"	"
1.24	3exs	"	"	"
1.26	4exs	"	"	"
2. 2	4exs	"	"	"

本種も本土産イヌマキに付着してくる種で前種に比して発見件数が多く、12~2月にも蛹室で越冬中の成虫を

採集記録

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1965 10.26	1♀ 2♀♀ (蛹)	フマリツビン カンボディア	ラワン カンボディア材	成虫
10.27		ア	11.22, 1♀羽化	
11.10	1♂(蛹)	フマリツビン	ラワン	飼育中に死んだ
11.11	2exs(蛹)	"	"	
11.22	1♂	"	"	革剝散布によつて死んだ成虫
12.25	9exs	"	"	lex(蛹) 8exs(幼虫)

数多くみかける。蛹室の入口は1つ。

体長8~10mm。体は黒色で翅鞘の中央背に黄白色の透明部があり、触角の第3、4節の先端には短いトゲ状突起がある。翅鞘は基部、小楯板後方と肩部が強く隆起し、中央及びその前方、翅端のものは白色微毛でおおわれる。特に前胸背、翅鞘基部、腿節、脛節は白色~淡褐色の直立長毛で密におおわれている。翅端はほぼまるくなる。九州、屋久島に分布し、5月頃出現する。

4. *Chloridolum accensum* Newman

ラワンミドリカミキリ

採集記録

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1965 10.27	5exs	フィリッピン	ラワン	2♀♀1♂ (成虫)
10.28	1♀	"	"	2exs(幼虫) 成虫

フィリッピン産ラワン材から採集した種で全体に金属光沢をもつ美麗種である。水没した材のため雄以外は死んで腐敗して採集された。幼虫は樹皮下を蛇行して食い進み、成長すると辺材部の浅い部分へ食入し蛹化する。

体長20~25mm(標本は22mm♂)。体は前胸背の中央部及び翅鞘の辺縁部が濃藍色で、他は緑色で光沢があり、前胸中央部は太く微細な横しわでおおわれ胸側には鋭い突起がある。触角第1節は太く、わずかに緑色光沢があり他は黒色に藍色を呈する。脚は前、中腿節及び後腿節の基部、各脛節末端部が赤褐色、他は暗藍色である。後脚は前、中脚よりはるかに長く脛節は扁平である。触角は体長より長く雌で1.2倍、雄では2倍以上に達する。

本種はフィリッピンのみに分布し、食樹としては数種のラワン以外に知られていない。

なお、当標本の加害していた材は大部朽ちていて材質も悪く、製材しても使えないとのことだった。

5. *Aeoleshes holosericea* Fabricius

ラワンビロードヤマカミキリ

採集年月日	採集頭数	産地	寄主植物	備考
1966 1. 6	1ex	フィリッピン	ラワン	幼虫
1.11	3exs	"	"	"
1.31	2exs	"	"	"
2. 5	1ex	"	"	"
2.10	5exs	"	"	2♀♀(蛹) 3exs(幼虫)
2.15	1ex	"	アピトン	幼虫

フィリッピン産ラワンに *Batocera* sp. に次いで多く発見される種で、現地ではかなりの被害がありその生活史は古くから詳細に判明している。成虫は通常6月下旬から7月にかけて出現し倒木や生立木の樹皮の割目に産卵し、数日で孵化する。幼虫は樹皮下を蛇行し、老熟すると辺材部に食入して(1cm程の浅いものから5~6cmに達するものもある)樹の長軸沿いに蛹室をつくり蛹化する。蛹室は石灰質の殻状の固い白いマユで囲まれ、マユの頭部は鉄カブト状を形づくりその中央より侵入口にむけて直径1~2mmの石灰質の突起を2~5cm伸ばすものと、1~2cmのところで両側へイカリ状に結ぶものとがある。これは蛹室内の状態(温度、湿度の調整、空気の流通等)に何らかの影響を与えるものと思われる。またマユを破損した蛹、幼虫の飼育は困難でその大部分は死んでしまう。このようなマユを形成するのは極めて珍しい習性で、カミキリムシ科では他に東南アジアに分布する *Plocaederus obesus* Gahan ほか数種のものが知られるにすぎない。幼虫は通常11月頃に成熟して蛹化し、越冬するが、稀に辺材部の孔道内で幼虫のまま越冬し、翌春蛹室をつくり蛹化するのもありこの場合は蛹期は6~8週間で短いという。また、年内に羽化して成虫の状態で蛹室内で越冬するものもある。(11月に採集した雄がこれ)。体長は変化に富み20~35mm(筆者の標本では♂で31mm, ♀で27mm)。全体筒状で暗褐色または灰~明褐色のビロード状の短軟毛でおおわれる。頭部はやや細長でほぼまっすぐに前方に突出していて前胸幅よりやや長く、両側は丸味をもつ。翅鞘は複雑なしわ状を呈し、軟毛密布のため光線の角度によって、まだら状、帯状の模様を生じる。触角は第1節は太く、他はムチ状で漸次細まり、♀では体長とほぼ同長、♂では体長よりもはるかに長い。

インド北西部からタイ、マラヤにまたがる一帯、セイロン、ニコバル諸島に分布し、食樹としては *Terminalia tomentosa*, *Hardwickia binata*, *Chloroxylon swietenia*, *Tamarix articulata*, *Acacia arabica*, ラワン, マンゴーなどが知られている。

6. その他

その他にラワン材に最も多い種でまだ種名の判明していない *Batocera* sp. (シロスジカミキリの1種) と、前に成虫で採集された *Euryphagus* sp. (ベニカミキリの1種) がある。

Batocera sp. は通常幼虫で付着してくるため、成虫を得ることが出来なかったが、昨年10月27日に採集した30

頭余の幼虫を飼育したところ終令幼虫が11月27日蛹化し12月10日に羽化して雄1頭を入手出来た。本種は形態的にシロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrol Lat.に酷似し、複眼後方から前胸側面、中後胸側板、腹部側方をとおり末端に至る太い白線が後胸側板まで腹部にはみられず、また背面が灰黄褐色の微毛でおおわれる点が異なる。

本種の幼虫は樹皮下を蛇行し、その孔道は60cmにも達し、成長して材部へ深く食入して成熟して蛹化する。1本の材に100余の幼虫が寄生することがあり、その害は最も大きい。

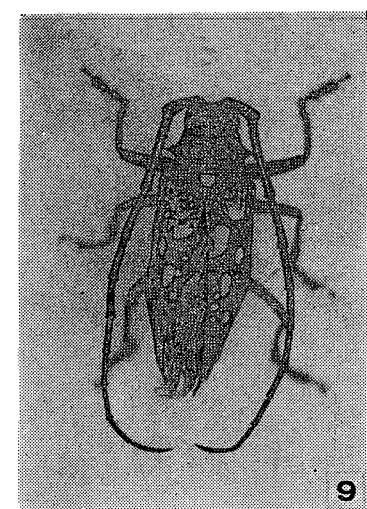
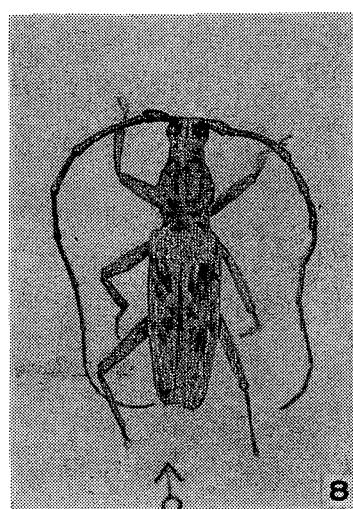
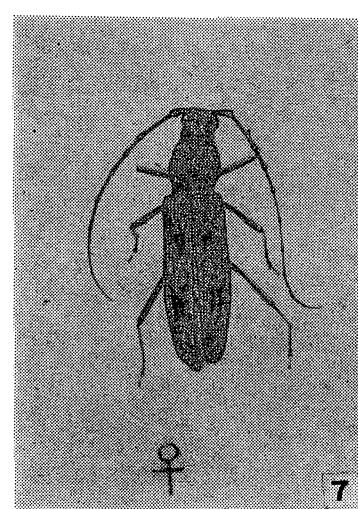
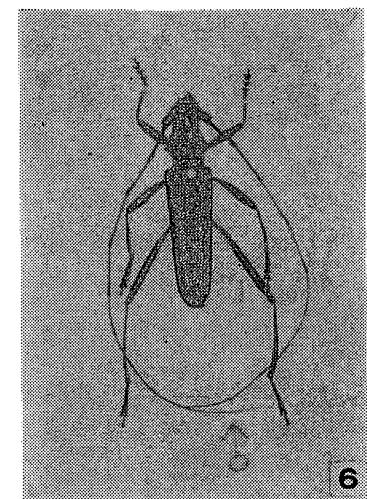
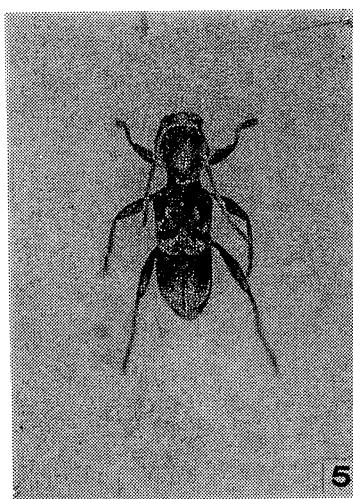
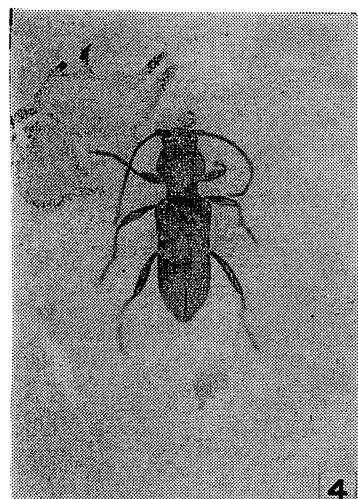
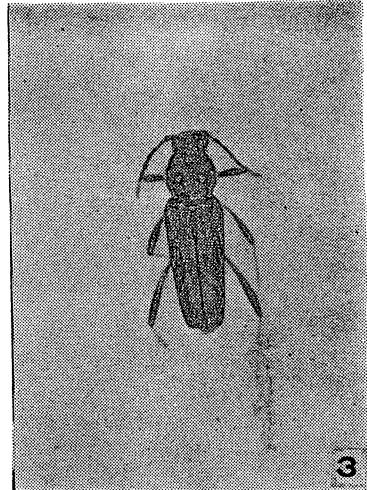
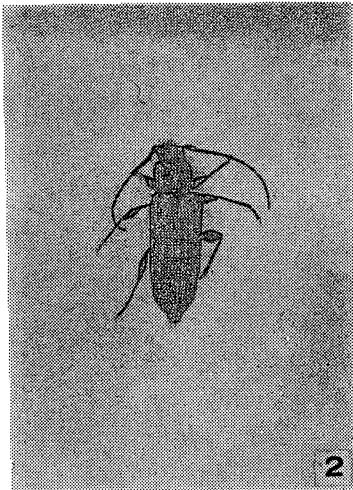
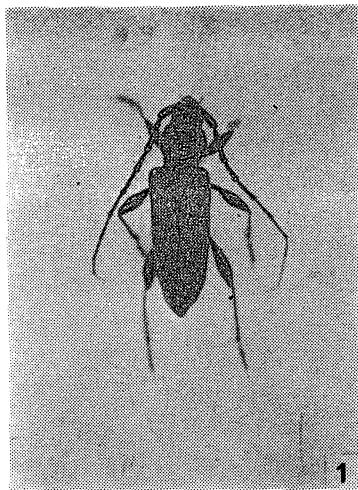
Euryphagus sp. はフィリッピンのラワン材から1965年4月24日に2頭採集されたものでその後は発見されていない。

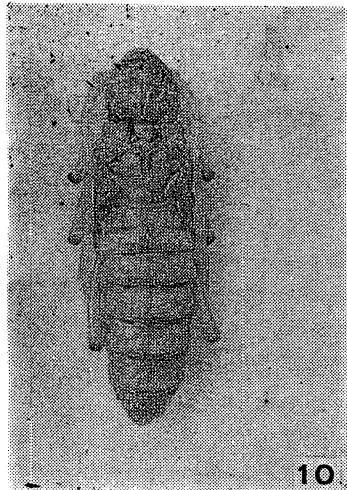
参考文献

1. 京浜昆虫同好会 1959. 日本産カミキリ類の生態と採集法一覧表 214, 227, 270
2. 大林一夫 1963. 原色昆虫大図鑑Ⅱ: 291, 295.
3. 琉球植物防疫所 1962~1965. 輸(移)出入植物検疫年報3~7.
4. 梅谷献二 1963. 横浜植物防疫ニュース245: 3.
5. 梅谷, 北島. 1963 横浜植物防疫ニュース259: 3.
6. 屋代弘孝他 1959. 沖縄産動物目録336, 340.

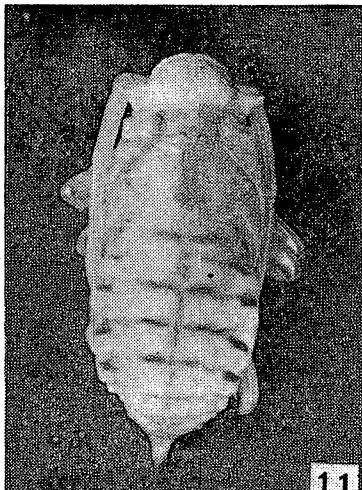
写真説明

1. ヒメスギカミキリ(雄)
2. ヒメスギカミキリ(雌)
3. ムネマダラトラカミキリ(雄)
4. ケブカトラカミキリ(雄)
5. ケブカトラカミキリ(雌)
6. ラワンミドリカミキリ(雄)
7. ラワンビロードヤマカミキリ(雌)
8. ラワンビロードヤマカミキリ(雄)
9. *Batocera* sp. (雄)
10. ラワンビロードヤマカミキリの蛹
11. *Batocera* sp. の蛹
12. ラワンビロードヤマカミキリの蛹室(断面)

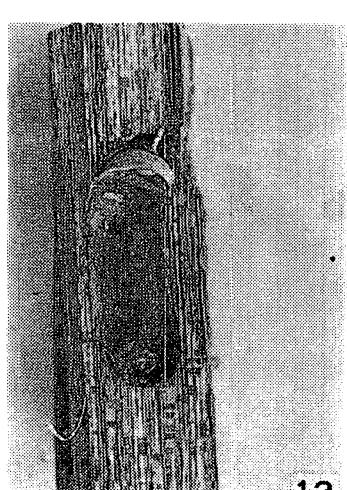




10.



11.



12.